あの一瞬

アメリカンフットボールXリーグ入れ替え戦。
チームを初昇格に導いたベテランQBのパス。

名古屋サイクロンズ
安保和之選手

燃えた輝いた 最高の花道

12月3日、神戸市王子スタジアム。イワタニとの入れ替え戦は0−0のまま、最終第4クオーターの残り時間4分。ベンチを温めていた36歳のクオーターバック（QB）に急きょ、出番がきた。

社会人アメリカンフットボールの2部にあたるX2リーグの名古屋サイクロンズ。所属14年目の安保は今季での現役引退を決意していた。QBの先発起用は監督でなく、安保が決める。長年プレーし続けてきたポジションを、今季は新人に任せた。そしてX2優勝。国内最高峰のXリーグで最下位に終わったイワタニに挑んだこの試合、均衡が崩れないまま迎えた終盤に、先発QBがけがをしたのだ。

突然の出場機会。だが元エースQBは「ここで回ってくるのかと。神様がいるのかなと思うぐらい、うれしかった」。時計は残り2分50秒まで進み、敵陣のエンドゾーンまで10ヤードに迫った攻撃。見せ場がやってきた。

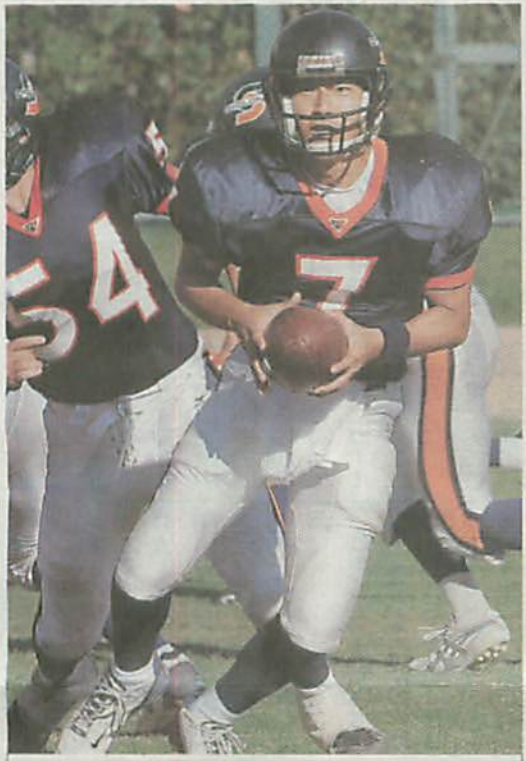
ランニングバック（RB）を走らせて、右サイドでのランプレーを装った陣形。右サイドに相手ディフェンスを集中させ、左サイドにいるワイドレシーバー（WR）へのパスを狙う。

「前の試合でも使っていた。得意のかたちで勝負した」というプレーが決まった。7−0の勝利につながる決勝タッチダウンだった。

サイクロンズは94年まで西日本リーグ1部に所属していた。だが、翌年に2部降格、96年に社会人リーグを編成し直して発足したXリーグから漏れてしまった。

「ずっと、Xリーグ昇格を目指してきた。最後にいい舞台でした」。やり遂げた仕事を振り返った。

（坂名信行）



あぼ・かずゆき　70年6月、兵庫県西宮市生まれ。岐阜県の朝日大歯学部に入学してからアメリカンフットボールを始める。名古屋サイクロンズには93年から所属。昨年までエースQB。兵庫県宝塚市内で歯科医院を開業している。

はく 朝日新聞 日付 1990.